

年 度 評 価 シ ー ト

課名 文化政策課

施設の名称 静岡音楽館	指定管理者名 (公財) 静岡市文化振興財団			
1 履行状況				
(1) 目標達成 ア 施設利用率 目標値 84% (ホール、講堂、リハーサル室の平均) 実績値 85.4% (前年度78.3%) 達成率 101.7% (前年度比109.1%) 【参考】令和元年度 (コロナ前) 実績値78.9%、達成率93.9% イ 公演等事業の定員 (有効座席数) に対する入場者数の割合 目標値 70% 実績値 65.4% (前年度63.1%) 達成率 93.4% (前年度比103.6%) 【参考】令和元年度 (コロナ前) 実績値67.7%、達成率96.7% ウ 地元音楽家の人材活用に関する事業 目標値 年間10回以上 実績値 22回 (前年度22回) 達成率 220% (前年度比100.0%) 【参考】令和元年度 (コロナ前) 実績値 7 回、達成率70% (2) 施設利用状況 ア 稼働率 来館者数 96,169人 (主催事業14,348人、貸館81,821人) (前年度 81,646人 (主催事業15,516人、貸館66,130人)) (3) 人員配置状況 正規職員：6人 (館長1、係長2、係員5) 正規職員 (学芸員)：3人 (次長1、係員2) 派遣職員：1人 (係員1) (4) 業務実施状況 静岡音楽館条例第2条に規定する各種事業について、業務仕様書及び事業計画書に従って実施されている。 主な事業と入場者数等実績は、以下のとおり。 <table><tr><td>事業内容</td><td>令和7年度</td><td>令和6年度</td></tr></table>		事業内容	令和7年度	令和6年度
事業内容	令和7年度	令和6年度		

	入場者数	目標値	入場者数	目標値
公演等事業	5,886人	6,320人	6,971人	7,959人
普及振興事業	4,263人	—	4,062人	—
支援育成事業	2,474人	—	1,367人	—
連携事業（3館含む）	8,702人	—	6,595人	—

① 公演等事業

公演等事業（15回）の合計入場者数は5,886人となり、前年度の6,971人（17回）から減少したものの、公演等事業の核として展開している「コンサートシリーズ」は、開館30周年を記念した歌劇、国内外のアーティストによるオペラ、室内楽、声楽、オルガン・500コンサート等、特定のジャンルに偏らない多彩な公演を実施し、うち5事業が完売した。

② 普及振興事業

中山間地等の遠方の居住者や特別支援学校、更生施設等の子どもたちにも演奏を提供するアウトリーチ・コンサートを実施し、静岡音楽館へ足を運ぶことが難しい層にも音楽文化に親しんでもらえる機会とした。駿府学園へのアウトリーチ・コンサートの継続的な実施により、法務省主管関東矯正管区長表彰を受賞した。

一方、静岡音楽館のホールならではの本格的な音響特性を広く周知するため、静岡音楽館へ気軽に来館してもらうことを目的とした「AOIのオープン・デイ」も実施した。「AOIのオープン・デイ」では、だれでも10分間ピアニストなど新しいコンテンツもとりにいれて前年度比113.4%の入場者を得ることができた。

③ 支援育成事業

「静岡の名手たち」オーディションによる専門性の高い人材の育成とともに、「アマチュア・アンサンブルの日♪」による市民の発表機会の提供や支援に力をいれている。

「静岡の名手たちオーディション」では、打楽器部門1名、声楽部門2名、弦楽器部門3名、アンサンブル部門1組が合格し、9月には合格者によるコンサートを実施した。また、地元音楽家の人材活用に関する事業は、目標（10回以上）を大幅に上回る22事業実施し積極的に活躍の機会を創出した。

④ 他施設との連携事業

静岡科学館及び静岡市美術館との「3館連携事業」を中心に生涯学習センターや小中学校等他施設と連携した事業を実施した。

3館連携事業では、静岡市美術館のパウル・クレー展の関連事業として「ピアニストのためのアンサンブル講座」を3年にわたり受講したピアニストを起用したミュージアムコンサートを実施した。

⑤ 維持管理業務

建築基準法において定める建築設備、昇降機及び防火設備の点検を適切に行ったほか、舞台照明設備保守点検業務や音響設備保守点検業務等、ホールの設備が正常に作動するための保守点検を第三者委託により実施し、各業務とも事業計画に従って適切

に行った。

また、空調機や照明器具等の修繕に加え、スネアドラムやピアノなどの楽器の補修を年間合計30件の修繕を実施した。

(5) 広報の充実

Facebook、Instagram、X (旧Twitter) といったSNS媒体を活用した広報やチラシ配布、新聞等への掲載など行った。

また、芸術監督の交代に際し、テレビ等の各種メディアで広く報道され、施設の認知度向上につながる効果的な情報発信が行われた。

【検証・分析等】

令和7年度は指定管理者業務仕様書で定めた目標である施設利用率84.0%を達成し、来館者数、施設利用率ともに増加となった。

有効座席に対するコンサート入場者数の割合は、指定管理者業務仕様書で定めた目標の70%を達成できなかったものの、前年度と比較して増加となった。

公演等事業については、指定管理者が有する人脈やノウハウを活用した多彩で上質な公演を実施した。「オルガン¥500コンサート」は実施した3回全てが完売となったことから、事業の魅力と関心の高さがうかがえる。普及振興事業については、駿府学園へのアウトリーチ・コンサートを継続的に実施し、文化芸術に触れる機会の提供に努めた結果、法務省主管関東矯正管区長表彰を受賞しており社会貢献の観点から高く評価できる。広報の充実も積極的に行い、新たな客層の獲得及び認知度の向上へと繋げる取り組みを行っている。また、「0歳児からのファミリー・コンサート」や「子どものための音楽ひろば」といった幼少期から音楽に親しむ機会を提供する事業を継続的に実施し、音楽文化の裾野拡大と次世代を担う子どもたち育成に寄与している。

支援育成事業については、「アマチュア・アンサンブルの日♪」など、地元静岡の音楽家を発掘・育成する取組みを積極的・継続的に行うことができていることは評価できる。人材育成に関する事業を多数実施し、プロからアマチュアまで幅広い人材の育成支援に取り組んでいるだけでなく、駅前3館連携事業や小中学校等他施設とも積極的に連携し、音楽館の外へ音楽文化を届けることができた。

維持管理業務については、利用者の声を踏まえた修繕も実施し、来館者が安全で快適に利用できるよう、音楽ホールとしての質の高さの維持に努めていることが評価できる。

【確認結果】

○：協定書等の内容が適正に履行されている。

2 市民(利用者)からの意見・要望の内容とその対応状況の評価(クレーム対応 等)

【具体的な意見・要望の無いように対応状況】

意見等：ロビーの椅子を増やしてほしい

対応：今後、9階についてはベンチの増設を予定している。一方、8階については、バーカウンター周辺に設備が集中しているほか、ソファもロビーに1セットのみであり、座席数が十分とは言えない状況である。ただし、動線確保等の観点から一定の

空間を確保する必要があるため、設置場所の拡充には課題がある。

【検証・分析等】

利用者からの意見・要望に対しては、概ね適切な対応がとられている。即時の対応が困難な要望に対しても前向きに検討しており、良好な対応がなされていると言える。

また、静岡音楽館では芸術監督制度を採用し、その下に企画会議と市民会議を設けている。外部からの意見や要望を積極的に取り入れる体制を整え、より良好な管理運営を目指している点は評価できる。これからも施設運営や事業計画に多様な意見を取り入れてほしい。

【確認結果】

○：適切に対応し、改善すべき事項は対応済み、または改善に向けて作業中である。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

（１）利用者満足度調査

各コンサートの入場者へアンケートを実施した。

【調査結果】

回答者総数：1,734件、満足度：96.8%

【検証・分析等】

15回の満足度調査を行ったところ、「非常に良い」又は「良い」と回答した割合は平均96.8%という高い評価を得ることができた。満足度が100%になった公演も2事業あり、利用者が満足するような質の高いコンサートが行われていると評価できる。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

（２）市民アンケート

【調査結果】

回答者総数：2,957人、当該施設を知っていると回答した人：1,914人

【検証・分析等】

静岡音楽館の認知度は64.7%、前年度（64.0%）と比較して増加した。引き続き、事業内容の広報だけでなく市民が気軽に来場できるイベントを企画し、施設の魅力をアピールする取組を行いながら、認知度を高めていくことを期待する。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

（３）その他の調査

施設内に投書形式の「利用者の声」を設置し、施設利用者に随時、意見・要望や施設満足度について調査した。

【調査結果】（回答者総数：2,772人）

各項目の「満足」「やや満足」の回答率は下記のとおり。

- | | |
|------------|-----------------|
| ① 職員の応対 | 80.8%（前年度78.9%） |
| ② 清掃、整理整頓 | 82.9%（前年度81.1%） |
| ③ 案内表示、掲示板 | 77.7%（前年度75.8%） |

④ 開館日・開館時間 76.4%（前年度73.7%） ⑤ 空調・音響・照明等 79.5%（前年度76.0%） 【検証・分析等】 全ての項目において前年度と比較し、「満足」「やや満足」と回答した人の割合が増加している。引き続き、利用者への応対を中心に、より意識を高め取り組んでもらうよう期待する。 【確認結果】 ○：調査の結果が概ね良好である。	
4 指定管理者の経理状況の評価	
【収支状況】 指定管理業務についての収支状況については、適正に執行されている。 【検証・分析等】 指定管理業務の収支状況については、概ね予算のとおりに執行されており良好である。指定管理業務の事業内容をより充実させるため、国等の補助制度を積極的に活用している。 【確認結果】 ○：安定的な施設運営を行っており、また今後も継続できる見込みである。	
5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）	
前年度事務事故発生の有無	有
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無
【前年度事務事故発生について】 チラシに掲載するコンサート出演者の名前を誤記載した事務ミスが1件発生した。当該事案については、チラシやホームページ、Webに掲載されている情報の修正を行うとともに、宣材写真やプロフィール等の差し替えが生じた場合には、変更内容を確認し館内で共有するなどの再発防止策が講じられている。 今後も適切な事務処理を行うよう努めていただきたい。 【検証・分析等】 管理運営全般に関しては、事業計画に従い概ね良好に実施されている。 施設管理については、静岡中央郵便局との合築建物であることから、日常的に情報交換を行いながら良好な関係を保ちつつ、必要な保守点検を行っている。 貸館事業においては、指定管理者業務仕様書に記載された目標84%以上を達成した。静岡市民文化会館の休館に伴い、代替施設として適切に機能し利用促進に繋げた点は評価できる。引き続き、施設利用拡大に向けた広報に努めてほしい。 主催事業は概ね事業計画のとおり実施され、公演等事業ではホールの音響特性を活かした上質な音楽を提供する「コンサートシリーズ」だけでなく、「オルガン¥500コンサート」など市民が気軽に音楽を楽しむことができる機会も継続して設けている。普及振興事業や支援育成事業においては、今後もアウトリーチや各種事業を通じて市民の鑑賞機会拡大や地域の音楽家の支援・育成のため更なる事業内容の充実を期待する。また、3館連携事業では、それぞれの特徴を活かした事業展開が図られ、新たな客層の獲得に繋がっているほか、来館者が相互に行き交うことで静岡駅周辺の回遊性を生み、	

中心市街地の賑わい創出に貢献しているといえる。

引き続き、事業内容の充実や広報手段の工夫に努めていくとともに、静岡音楽館の使命である「広く市民に音楽に触れる機会を継続的に提供」していくことを今後も期待する。

【評価結果】

○：良好な管理運営であった。

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったときは、必ず改善状況を記載すること。